

トルコで私も考えた

高橋由佳利 著

この本を初めて読んだときはまだ一巻しか出ていなかったのに、いつの間にか4冊も続編が出ていてびっくりしつつ、友達から借りて全巻イッキに読破してしまいました。

一巻目は作者のトルコ旅行に行った話だったので、旅行者から長期滞在をしてトルコ語を学び、二巻目からは、いつの間にか現地で出会ったご主人（トルコ人）と結婚、トルコでの生活、帰国しての子育てなど作者の本当の体験を通じてのトルコの習慣や生活が書かれています。ただの旅行記として終わらないところが面白かったです。その上、簡単なトルコ料理やお菓子の作り方が書いているので「甘そうだけど美味しそう食べてみたいなあ」と思いながら読んでいきました。最初この本に出会った頃は「トルコで旅行かあ・・・長期滞在なんて羨ましい。私もお金を貯めて日本脱出する！」と旅心？ 逃避願望？ がグルグルと渦巻いていましたが、今回改めて読んでその場所でシツカリ生活して行く作者のたくましさやひしひしと感じました。作者はトルコという国について「面白いことがたくさんあって語り尽くせない」とも紹介していました。「まだ面白いネタがあるなんて！すごい国や」と感心してしまいました。そして読むたびにトルコのお菓子「バクラヴァ」を食べたいと思い、ついにインターネットで詳しいレシピを調べて作ってしまいました。ずっと食べたかったバクラヴァは癖になる甘さでも美味しくかったです。

N・F・



集英社

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞